

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 2012年度を目標に、海外交流協定校をアジアで一大学、欧米で一大学増やす。	→学術交流協定校数。	B
2. 外国人客員教員を常時招聘し、共同研究や授業科目担当を実施することで研究活動の国際化・高度化を図る。	→海外客員教員数、共同研究件数、共同研究成果の公表。	A
3. 国内外の著名研究者を招聘し、学術講演会、セミナーやシンポジウムを年間5回以上開催する。	→開催プログラム数、参加者数、内容の公表。	B
4. 2012年を目標に、後期課程在籍者、大学院研究員の留学件数、海外での学会発表件数を2割以上増やす。	→海外における学会発表の件数。留学者数。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) 海外から院生や客員教授を受け入れるだけでなく、積極的に教員や院生の海外での研究発表、教員の海外での講座やレクチャーを進め、海外の大学や大学院との共同研究も行っている。これによって、当初予定している国際交流の基本方針が目に見える形で確実に実行されている。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 北京第二外国語学院と協定を結び、毎年院生を2名乃至1名受け入れている。その他、海外から教員の短期研修や院生の短期留学も受け入れている。毎年海外から客員教授を1名招聘している。研究科の教員も毎年海外の大学や大学院の招聘により、学術講座やレクチャーを行っている。院生の国際学会での発表数も増え、前年度と比べて、400%増になる。北京第二外国語学院との共同主催で年に一回国際フォーラムを開催し、共同研究も行っている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【言語コミュニケーション文化研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	3	3	4	9	9	
			交換	人	0	0	0	0	2	
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	%	4.3	4.6	6.1	11.7	12.3	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	1	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0	1.5	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0	0	0.0	0.0	0.0	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	1	0	0		
		短期	人	0	0	1	0	1		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

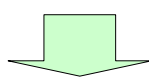
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	海外の協定大学院との交流や海外との学術的交流によって、院生の研究レベルが確実に上がり、視野も広がっている。
★ 小項目 7.0.2	北京第二外国語学院から院生を3名受け入れている。毎年海外から客員教授を1名招聘することにより、授業に活気をもたらしている。3名の教員が海外の大学で学術講座やレクチャーを行っている。院生の国際学会での発表数は前年度と比べて400%増。年に一回北京第二外国語学院で共同主催の国際フォーラムを開催。北京第二外国語学院と共同研究に双方の教員だけでなく、院生も加わっている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	関係部局の理解や協力を得ながら、具象性のある内容を伴う国際交流を更に充実させ、確実に進めていく。
★ 小項目 7.0.2	海外の協定大学院を2校増やし、ダブルディグリーを導入し、より豊かな内容を持つ国際交流を進める。積極的に教員の海外での講演やレクチャーを進め、共同主催の国際フォーラムや共同研究を継続させる。院生の海外での研究発表を積極的にサポートし、補助金制度を維持する。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目7.0.1	バリエーションに富む国際交流をいかにして長期的に維持することができるかが課題である。
★小項目7.0.2	予算が限られているため、国外の著名な研究者を招聘し、学術講演会などを開いて、より活潑な国際交流を行うという目標が達成していない。また海外の大学院の協定校は一枚だけなので、豊かな交流内容になるためには更なる努力が必要。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目7.0.1	関係部局の理解や協力を求めながら、辛抱強くバリエーションに富みなおかつ具象性のある国際交流を目指す。
★小項目7.0.2	知恵を絞り、例えば、海外の著名な研究者が来日される際に、学術講演会などを依頼する。海外の大学院の協定校を増やし、より豊かな内容を持つ学術的な交流を図る。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	教員と学生とのミスマッチを解消し、より良質の院生を確保するため、社会人を含む研究生制度を導入したい。しかし、これは研究科の力だけで解決できる問題ではないので、関係部局の協力を期待したい。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○海外での研究発表や共同研究など積極的に行われており大変優れています。院生、教員の交流もいろいろな形で行われており評価できます。中国以外の国の大学との交流も可能であれば検討されることが期待されます。

【学内委員】

- 小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。
- 小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思えます。また、確実に実行されている国際交流に関する数値をお示しただけではより分かりやすい説明になります。
- 国際交流は順調に推移していると思われま。自由記述にある研究生制度は国際交流の枠組の中で記す内容でしょうか。
- 自己点検・改善のサイクルが機能していると判断されます。
- 2006年度の認証評価において、海外大学との交流について「助言」が付されましたが、着実に推進されています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
